

特集 理解を深めよう！ ICU でよくみる おもな疾患・病態



編集責任

横須賀共済病院集中治療科

磨田 裕 USUDA, Yutaka

特定集中治療室管理料1と2については、その診療報酬算定要件に臨床工学技士が夜間も含めて病院内に常駐していることが求められている。これは、ICUでの治療が臨床工学技士の知識や技術を常に必要としていることを物語っている。

ICUでは、重症な病態や大きな侵襲の術後などさまざまな患者の治療が行われている。そしてその治療では、一般病棟と違って、人工呼吸器や血液浄化装置など多くの治療機器やモニタ機器が使われており、これらの機器のほとんどは臨床工学技士が保守管理を行っている。これらの機器の保守管理を行うとき、臨床工学技士は単に機器としてのメンテナンスを行うだけでなく、その動作が生体に対してどのような作用を及ぼすかについても考えている。実際には患者の治療に使われているので、その機器がどのように患者に影響を及ぼし、その病態に対する治療効果、さらには有害事象なども同時に考えることが必要である。そのため、実際の病態についても理解を深めておくことが必要である。

臨床工学技士としてこれらの治療機器が実際に使われる病態について知識を深めることは、臨床現場での医師・看護師らとの

コミュニケーションをとりやすくし、医療スタッフのチーム力向上にもつながる。また、院内ではこれらICUで使われる機器について、ICUナースや研修医などを対象に研修会・説明会が開催され、その研修会は臨床工学技士が担当することも多い。

ICUで治療を受ける患者は診療科を越えて、その病態、管理などは多岐にわたるが、本特集では誌面の都合上、主要なものをとりあげた。すなわち、呼吸系ではARDS、循環系ではACSというように代表的なものに絞り、臨床工学技士として知っておきたい内容が解説されている。今回、これら各項目の執筆をお願いした先生方は、それぞれの領域のエキスパートである。どのテーマも、それぞれ重要かつ最新の情報が満載されている。

企画の段階では、おもな読者である臨床工学技士を対象としたが、完成したものは臨床工学技士だけでなく、ICU・救急などにかかわる医師・看護師にも大いに役立つものであり、これだけでも第一級のテキストの柱になるものとなった。今回、貴重な時間を割いてくださり、またお忙しい中ご執筆いただいた執筆者の先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。